

クランプ把持工具の開発

背景と目的

現在行われている様々な配電設備工事の中で、高圧耐張碍子（以下「耐張碍子」という）の間接活線工法による取替工事（以下「取替工事」という）は、間接活線工法の中でも特に難易度の高い作業であり、多大な労力と時間を要していました。

このため、従来工法における作業の課題・問題点を整理し、新たな工具の開発を行ったものです。



耐張碍子取替工事の様子

開発の概要

開発した工具は電線と碍子を接続する引留クランプを把持する工具であり、これまでの課題であった碍子から引留クランプを外した際の電線の捻れによる引留クランプの回転や耐張碍子と電線自重による引留クランプの垂下の発生を防止する構造としました。

導入による効果

開発した工具を活用することにより、作業の習熟度合いに左右されることなく、安全にかつ作業時間を大幅に短縮することができます。また作業の安全性が向上することで、肉体的、精神的な労力の軽減を図ることが可能となりました。

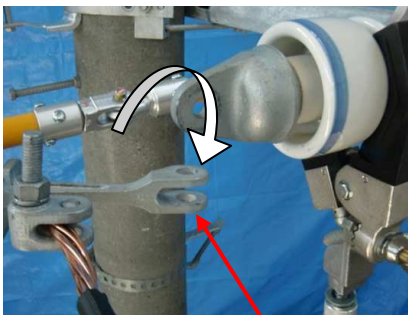
開発した工具については、当社管内の全事業所および請負工事会社に導入されております。

受賞

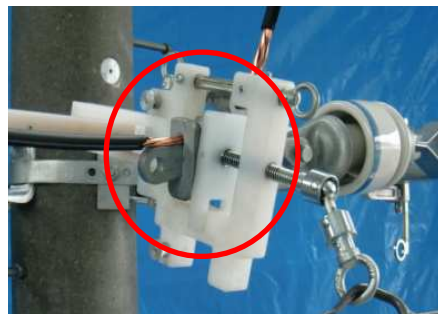
- ・第60回 濫澤賞 <日本電気協会>
- ・東北電気関係事業功績・功労者表彰 特別功績賞 <日本電気協会東北支部>

特許

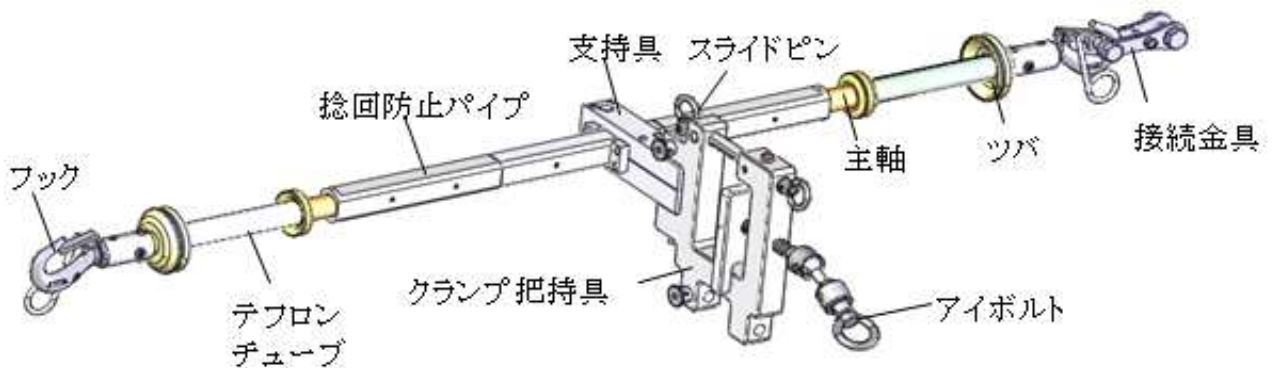
- ・特許登録済



従来工法：引留クランプが回転



開発品使用：引留クランプを把持→回転しない



開発品：クランプ把持工具

担当：配電部

先進技術の獲得に資する
研究開発